
目覚め

じく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

目覚め

【コード】

N9337Z

【作者名】

じく

【あらすじ】

起きるのを待っていた男の子と目が覚めた女の子のお話。

「おはよう」

そう言つて私の髪を撫でる人懐っこい笑顔が目の前にある。私達はベッドの上、一枚のタオルケットに包まれていた。

「おはよ、大ちゃん」

「あれ、昨日は”大輔”って呼んでくれたのに」

ねえ、昨日みたいに呼んでよ

なんて言つて一層眩しくなる笑顔を見ないように起き上がる。床には二人の衣服がぐちゃりと脱ぎ捨てられていた。

「大ちゃん今日用事あるんでしょ？さっさと服着て
「んんー」

名残惜しそうに枕に埋まる彼は可愛い犬のよう。でも、その首に首輪をつけるつもりなど私には無いんだ。

だるいなあ、身体が重いよ。

「ほら、コーヒー淹れてあげるから」
「マジで？やったねー」

もそもそと起き上がつてとびっきりの欠伸。

横目に見てれば視線に気づいて、お得意のスマイル。やっつてらんない。

無造作に脱ぎ捨てられたシャツを着て、
大ちゃんのためのコーヒーを淹れにキッチンへ。
ありがとー大好きだよー、とか背中に投げつけられる言葉。

「（大好きだよ）」

コーヒーを淹れて部屋に戻るとちゃんと着替えた大ちゃんが笑って
た。

「何時に出るの？」

「んー、これ飲んだら行く」

「そう」

A M 9 : 1 1 分

「大ちゃん」

「ん？」

「呼んだだけ」

「そか」

A M 9 : 1 5 分

「大ちゃん」

「ん」

「飲んだ？」

「うん。もう行くわ」

ありがと、と人懐っこい笑顔を向けて立ち上がる。

その笑顔が私にはとても眩しくて、恐ろしいものだ。彼は知ってる

のかな。

玄関へと迷い無く進む彼を追いかけた。
するりと靴を履いて、大ちゃんはまた笑う。

「そんじゃ、いつてきます」

がちやりとドアノブが回り、ドアが開かれる。
やけに眩しく感じる光が大ちゃんを照らして、
あの眩しい笑顔が眩しい光に吸い込まれていく。

「大ちゃん」

「何？」

「・・・おはよう」

ふ、と驚いた大ちゃんだったけど、すぐに人懐っこい笑みを浮かべて
今度こそ大ちゃんは「いつてきます」をした。

大ちゃんを見送った私が部屋へ戻れば
さつき大ちゃんが飲み干した筈のコーヒーは湯気を立てていた。

AM 9:23分

(後書き)

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9337z/>

目覚め

2011年12月29日04時53分発行